

欧米メディアが中国について伝えないこと

ジェリー・グレイ (Jerry Grey)

マンスリー・レビュー・オンライン 2024 年 6 月 10 日

[What Western mainstream media won't tell us about China | MR Online](#)

香港では、1987 年の中国と英国との共同宣言で、国防問題は本土の手に、地方警察と行政問題は特別行政区に属すると明記されている。中国は共同宣言を 100% 遵守しているが、英国は遵守していない。もし私の言うことが信じられないなら、共同宣言を読んでみてほしい。

台湾に関連して、アメリカの歴代大統領が台湾からすべての軍隊を撤退させることに合意した共同声明が 3 つある。1972 年にニクソンが言い、1979 年にはカーターが合意し、1982 年にはレーガンも約束した。米国の歴史家たちは現在、日付は示されていないと主張しているが、軍備を縮小し、軍隊を撤収させるという明確な表示が常にあったのである。

したがって、現在台湾に駐留する米軍は侵略軍であり、台湾に駐留させることで、米国は自国の「台湾関係法」を順守しているかもしれないが、国連憲章や国連決議に違反し、自国の 3 人の大統領が約束したことを破っているのだ。

少し新疆ウイグル自治区に話を移そう。

国連(のアラーナ・ドゥハン特別報告官)が新疆ウイグル自治区を訪問したのはつい先月のことで、これも主流メディアが伝え忘れたことだ。中国による人権侵害がないことがわかっただけでなく、アメリカによる人権侵害があることがわかったからだ。

また、アメリカは中国から推定無罪、つまりデュー・プロセス(適正手続き)を

排除していることも明らかにした。ある企業は、人事政策に関する独立した評価を含む 1 万ページに及ぶ情報を提供したが、アメリカはそれでは不十分だと言った。

メディアは私たちにこのことを伝えなかった。なぜなら、新疆ウイグル自治区から発信されるポジティブな情報はすべてネガティブに報道されなければならぬからだ。(一方的な強制措置の悪影響についての国連報告官の)アラナ・ドゥハン博士の訪問が伝えられなかったように。

メディアは私たちに肯定的なことを伝えるよりも、むしろ不作為によって嘘をつく。私たちに聞かれたいことは伝えないのだ。

香港について彼らが私たちに伝えていないことは、さらに信じがたいことだ。香港では最近、何人かの人々が法廷に立たされた。西側メディアが言うように、民主的な立場をとったという理由ではなく、ガソリン爆弾を準備し、大量殺人を計画し、そこにすでに存在する民主的なシステム全体を台無しにしようとしたという理由である。西側メディアはこのことを何も伝えていない。みなさんは、国際的な資金提供や、2つの爆弾、警察官を殺害する狙撃手などを含む計画があったことを信じられだろうか。

テロリストの何人かは台湾に行き、身元不明の人物に訓練を受け、できるだけ多くの警察官を殺害する計画を練ったのだ。香港や中国以外のほとんどの人はこのことを知らないが、私は事実だと断言する。これらは公開の法廷で明らかにされたことだ。そこにはジャーナリストもいたが、彼らはそれを伝えなかった。関係者の多くは有罪を認めた。共犯者に証拠を突きつけた者もいる。

中国が無実の民主化デモ参加者を迫害しているのではないのだ。

西側メディアが、民主主義的な考えを持った人々が有罪判決を受けたと伝えるとき、彼らが省いているのは、彼らがとなえる民主主義の形が、経済や社会の崩壊、完全な統治不全につながる殺人や騒乱を意味していたということだ。多くの国で死刑判決を受けるようなことが、今、香港の法廷で裁かれている。裁判にか

けられているのは民主主義ではなく、国際的に組織され、資金提供されたテロリズムなのだ。

ティム・サマーズ博士は香港大学の教授で、長い時間をかけて2020年から2023年までの英国メディアの数千もの記事を調査した結果、次のようなことを発見した。

さまざまなメディアにおける中国に関する記事の大半は、英国の読者にとって中国を否定的にみる論調や形態を採用している。その過半数は3分の2という桁であり、おそらくそれ以下ではなく、それ以上であろう。さらに、中国を肯定的にとらえている記事はほとんどない。

このことが意味するのは、肯定的なニュースを報じないだけでなく、肯定的なものには否定的な傾斜をつけて報じているということである。このことに気づくのに大学の調査は必要なかったことは確かだが、中国に対する容赦ない偏向があることが、説明責任を果たし、透明性があり、どこの国の学者にも受け入れられる方法論で、事実として証明されたのは喜ばしいことである。

中国がすべて悪いというのは事実ではない。14億人に聞けば、そうではないと言うだろう。西側メディアの支配者が、視聴者にそう思わせたいのだ。同じような研究がイラク戦争にわれわれを引っ張っていたメディアについて行われた。

ロシア、ベネズエラ、イラン、北朝鮮など、アメリカ政府がならず者政府が存在すると思わせたい国々についても、同様の否定的な偏向報道があったと断言できる。しかし、批判的な読者は注意深く見るべきである。ティム・サマーズ博士や他の多くの学者たちがしてきたように、注意深く見ればわかる。西側メディアの頭の中以外では、これらは『ならず者国家』ではない。

中国は何百万人もの人々を貧困から救い出し、平和と協力、低開発国の発言力強化を呼びかけている。中国は侵略していないし、侵略すると脅していないし、侵略するかもしれないとさえ言っていない。わずか150年前に起こったように、自国の領土の一部である台湾が外部の影響によって奪われないように守ると明

言しているだけだ。中国は、14億人の国民にとって有効であることが証明されたイデオロギーを持つ国として存在しているだけなのだが、そのイデオロギーは世界の一部の国々から毛嫌いされている。

その結果、私たちは中国について、その意図や政策について、数々の嘘を聞かされている。もし中立的な主要メディアがあれば、香港のテロ計画のようなことを知ることができただろう。台湾に関する共同宣言や共同コミュニケについても知らされているはずだ。新疆ウイグル自治区の現実を知り、あらゆる中国のストーリーの両面を知り、独自の判断を下すことができるだろう。現状では、物語の否定的な半分だけが伝えられて、西側諸国の多くが中国を脅威と考えている。

実はそうではない。本当の脅威は、中国を脅威だと言う人々から来るのだ。

筆者のジェリー・ブラウン氏は、中国広東省中山市を拠点に活動しているイギリス人福祉基金活動家。2004年に移住していらい、障害者支援の募金活動。ブリッジ・ビルダーのサイトを運営。原文は、オーストラリアの「パールズ・アンド・入りテーション」2024年6月9日に掲載。

【機械翻訳チェック 田中靖宏】